

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第85回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

活況を取り戻した日本の不動産市場に対するインバウンド投資の受け皿はどのようになっているのか。グローバル市場の見聞を広めるためにシンガポールに行った。シンガポールは東南アジアの島国だが、

観光客に優しい地下通路

ら観光客が訪れる。13年の観光客数は1550万人(国土交通省国土政策局「シンガポールの観光・経済社会について」14年4月より、日本は1036万人)に上り、観光収入を念頭にした国づくりに投資される。主要な観光地の一つであるオーチャードロードはルイヴィトンやプラダなどの高級ブティックが並び、日本の老舗デパート、高島屋も出店している。東京・銀座の中央通りにあ

る。日本でも地下通路が増えている。日本で最長と言われる東京駅、大手町、銀座を結ぶ地下通路は約4キロに及ぶ。半蔵門線、千代田線、東西線、丸の内線のほか、KITTEなどの商業施設ともつながり、多くの人が利用する。日本の不動産市場再生を先導する地区でもある。地下通路は駅や商業施設とながって便利な半面、目印が少なく、迷宮のようで分かりにくい点が地上と異なる。両国とも行き先を示す看板が目に入るが、ピ

シンガポールと日本の場合

近年急速に発展し、世界有数の商業の中核となった。今年3月に死去した建国の父、リー・クアンユー元首相が指導した施策の光の部分が開花したものだ。

シンガポールの主な収入源の一つは観光で、日本をはじめ世界各国か

たるが、一方通行の車があわただしい。横断歩道がほとんどなく、横断歩道以外を横断すると罰金刑に処される可能性がある。

ルや道路の名前を知らない観光客には分かりにくい。東京では最近、外国人旅行者を多く見かけるようになった。円安が契機

地上と地下の位置を照合した地図の作成、様々な言語の標識づくりや携行用マップを随所に配置する「もの作戦」のほか、迷っている観光客には積極的に話しかける「ひと声作戦」も欠かせない。

【教員のコメント】

横断歩道の代わりに3つの駅ともつながる歩行者用の地下通路があり、アクセスが良い。天候を気にせず歩けることに加え、平均気温が30度近い現地ではクーラーの利いた地下通路は快適である。

不動産投資のグローバル化が自覚ましい。日本でもグローバル投資の対象となる地域や建築は一変した。地域がお洒落に、建築が大きくなることに目が向くが、見知らぬ国を乗りこむ、ひいては安心して投資するためには人への配慮が基本だ。

不動産投資のグローバル化が自覚ましい。日本でもグローバル投資の対象となる地域や建築は一変した。地域がお洒落に、建築が大きくなることに目が向くが、見知らぬ国を乗りこむ、ひいては安心して投資するためには人への配慮が基本だ。



木下 さわこ
大学院2年



観光立国・シンガポールの歩道風景